

経営比較分析表

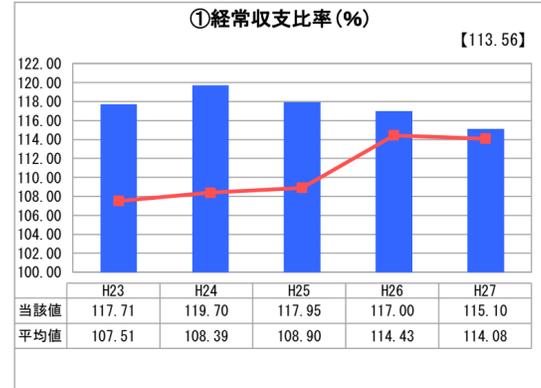
埼玉県 上尾市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A2
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	77.02	99.81	2,916

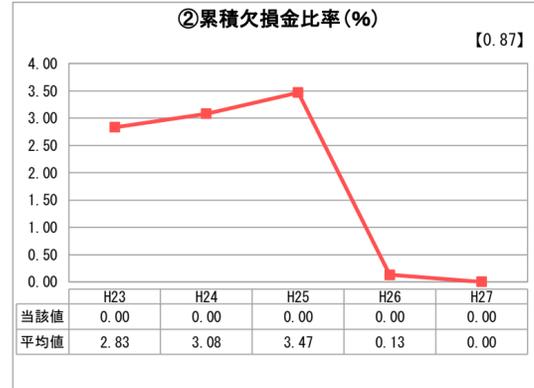
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
227,890	45.51	5,007.47
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
227,490	45.51	4,998.68

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	平成27年度全国平均

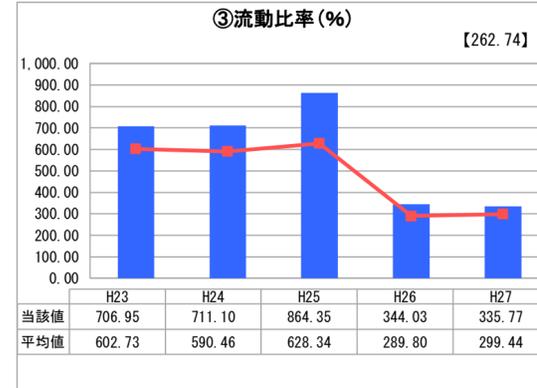
1. 経営の健全性・効率性



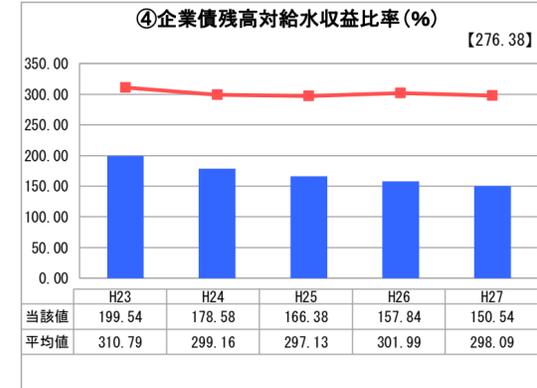
「経常損益」



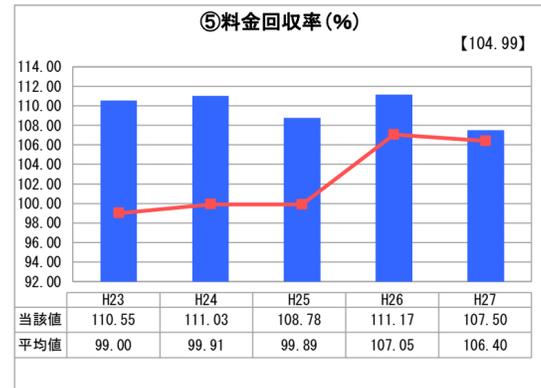
「累積欠損」



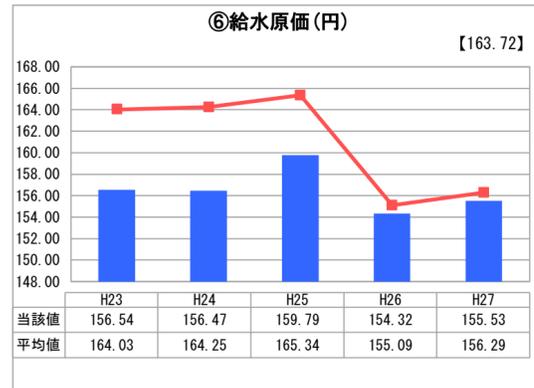
「支払能力」



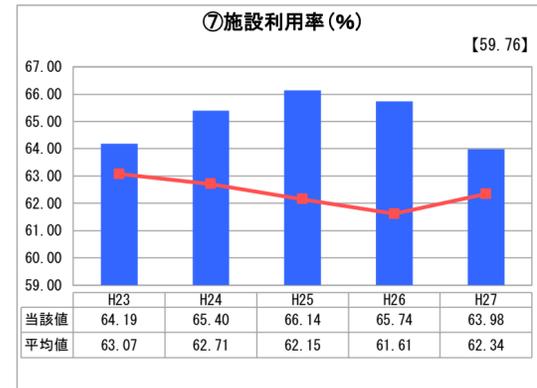
「債務残高」



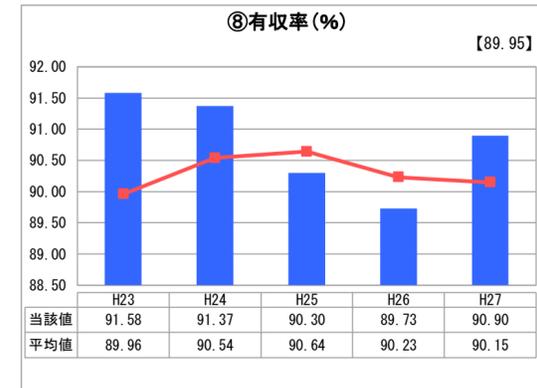
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

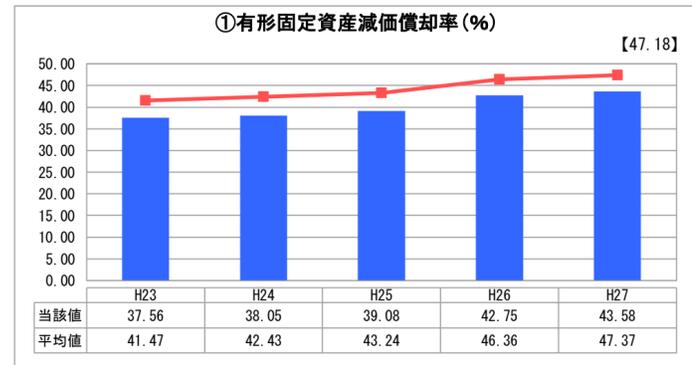


「施設の効率性」

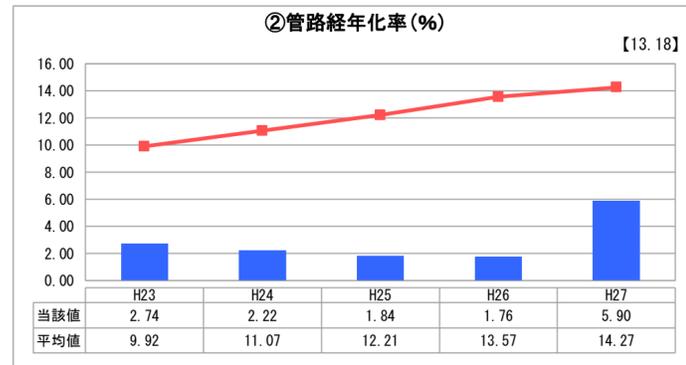


「供給した配水量の効率性」

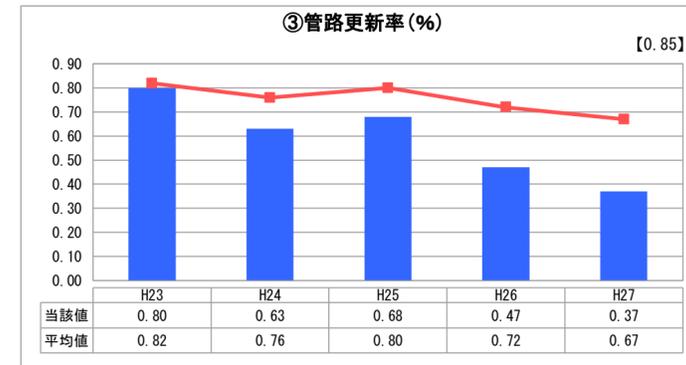
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率・② 累積欠損金比率
 経常収支比率は100%以上で推移し、累積欠損金比率は0%を維持し収益性は確保されている。

③ 流動比率
 平成26年度の会計制度見直しにより下降しているものの現金預金残高に大幅な変動はなく、短期的な債務に対する支払能力は安定している。

④ 企業債残高対給水収益比率
 近年起債をしておらず下降傾向であるが、今後控えている浄水施設等の更新では起債によりこの比率の上昇が見込まれる。

⑤ 料金回収率・⑥ 給水原価
 料金回収率100%以上を維持しているが給水収益は近年減少している。給水原価はほぼ現状維持であるが施設の更新による減価償却費の増額で上昇が見込まれる。設備更新費用の財源確保のためには引き続き費用削減に努める必要がある。

⑦ 施設利用率
 全国平均や類似団体平均を若干上回り、施設を効率的に利用しているといえる。

⑧ 有収率
 近年下降傾向にあったが、平成27年度は90.9%と上昇し全国平均や類似団体平均を上回った。漏水やメーター不感水量以外に水質維持のため不可欠な管洗浄等による水量にも影響を受けるため、引き続き維持管理の効率向上に努め料金回収率に反映させていきたい。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率
 全国平均、類似団体平均とほぼ同様に推移している。

② 管路経年化率
 全国平均や類似団体平均と比較して非常に低いものの、前年度までより大きく上昇している。

③ 管路更新率
 非常に低い値となっている。第3期及び第4期拡張事業で布設した管路の更新を控えているため、優先度を見極めながら効率的に更新を進めることが必要となる。

全体総括

本市の水道事業は昭和39年10月に給水を開始し、50年を経過した。その間創成期から第5期までの拡張事業を行い、第2期までに布設した管路の更新はほぼ完了している。今後は浄水施設の耐震化や更新、概ね第3期以降に布設した管路の更新等を控えている。

また、平成23年度から平成27年度にかけて経営状態に大きな変動は見られず健全な状態を維持しているものの、社会的な問題である人口減少や少子高齢化等による水需要の減少により給水収益の減少が見込まれる。上尾市水道ビジョンに基づき長期的視点に立った事業運営を執行し、施設整備計画に基づき効率的に更新を実施することで増大する施設更新需要に対応していきたい。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。